

平成23年度

# 静岡県事故ゼロプラン

## ～事故危険区間重点解消作戦～



### 静岡県内の交通事故ゼロを目指して

国土交通省 静岡国道事務所／浜松河川国道事務所／沼津河川国道事務所  
静岡県警察

平成24年3月

## 01 事故ゼロプランの目的

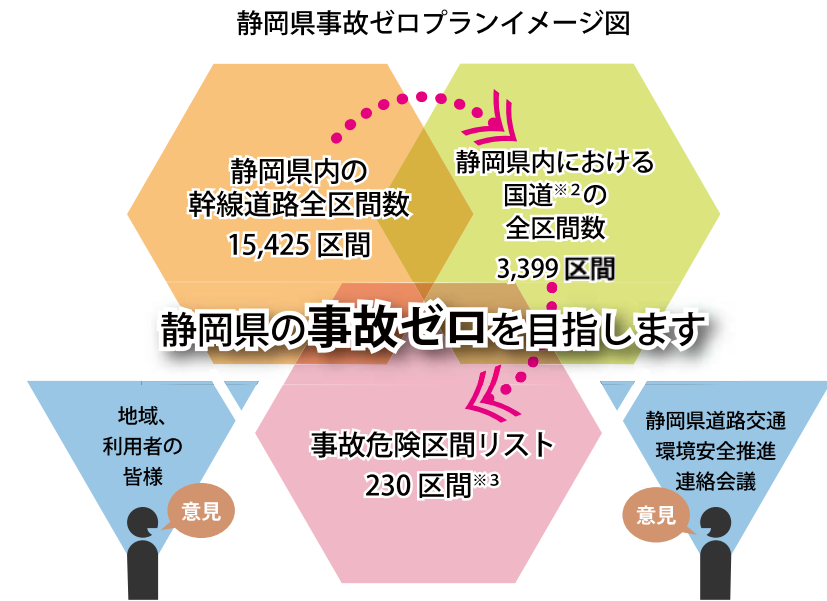
### 計画の背景

ここ数年、静岡県内における交通事故の発生件数は、35,000件を超え、横ばい傾向にあります。また、交通事故による死者数は減少傾向にありますが、約170名もの尊い命が奪われています(平成22年)。こうした現状を踏まえ、「国土交通省及び静岡県警察」では、交通安全事業の効果を高めるとともに、県民の皆さまと一体になって重点的に交通事故を減少させるための新たな取り組みとして、平成22年度より、「静岡県事故ゼロプラン～事故危険区間重点解消作戦～」をスタートさせました。

### 計画の目的

国土交通省が管理する国道※1において、事故が発生している危険な箇所や事故の発生を未然に防ぐ箇所を「事故危険区間」として選定し、利用者や沿線住民の皆さまに交通事故が起こりやすい危険な箇所をわかりやすく発信します。

交通事故の撲滅に向けて、「選択と集中」と「県民参加、県民の協働」の考え方の下、選定した箇所において、交通事故対策を着実に推進していきます。

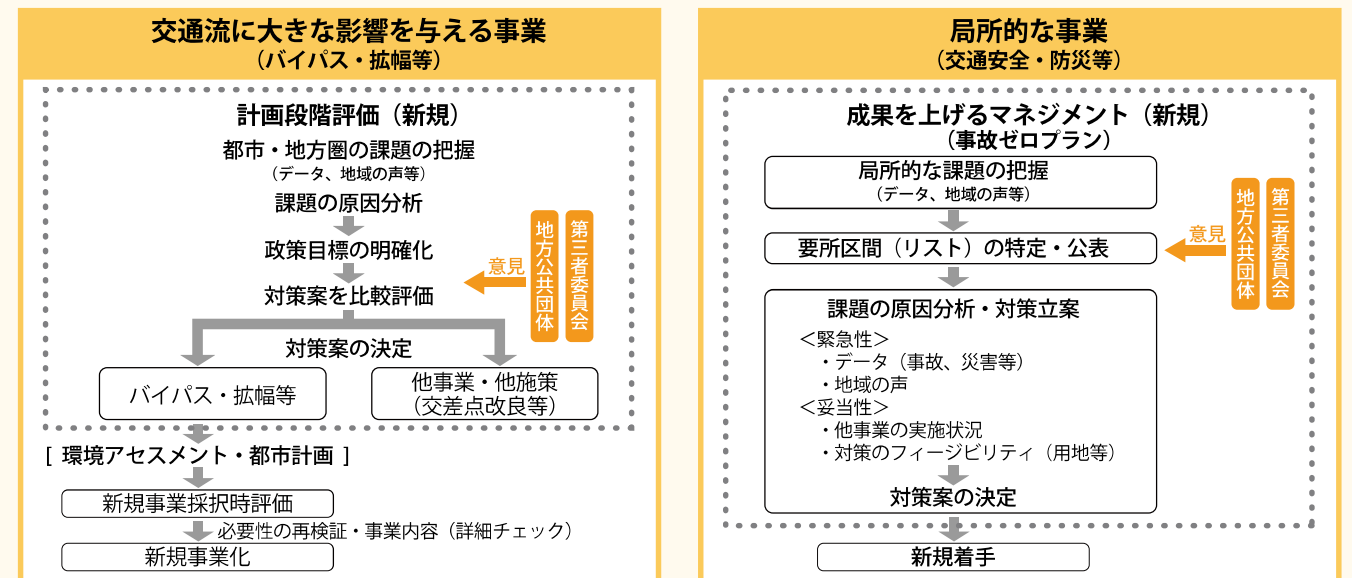


- ※1：平成22年度より国土交通省が管理する国道を対象に取り組みを試行しています。
- ※2：国土交通省が管理する国道(国道1号、国道52号、国道138号、国道139号、国道246号、国道474号)
- ※3：平成23年度に1区間追加

### 参考 「政策目標評価型事業評価」の概要

国土交通省では、「公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上」を図るための新たな取り組みとして、「政策目標評価型事業評価」を導入することとしました。これを踏まえ、道路事業においても、事業の透明性、効率性を一層高めるため、バイパス・拡幅事業等について計画段階評価を導入していくとともに、局所的な事業に対し、データや地域の声等に基づいた、「成果を上げるマネジメント」の取り組みを導入します。

「静岡県事故ゼロプラン」は、限られた予算の中、交通事故対策への投資効率を最大限高めるため、この「成果を上げるマネジメント」を交通安全分野で進めていくための計画です。



政策目標評価型事業評価の導入に係る道路事業における取り組みについて(平成22年8月国土交通省記者発表資料)より作成

参考資料

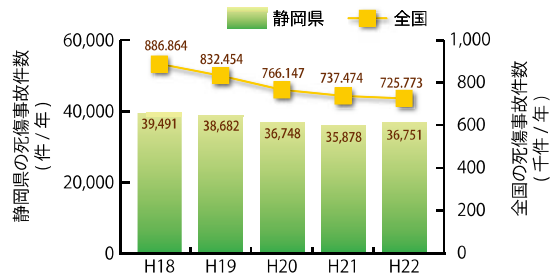
# 02 静岡県の交通事故発生状況

静岡県の交通事故の発生件数は、平成22年では36,751件（全国7位）であり、近年横ばい傾向にあります。また、交通事故による死者数は、年々減少傾向にありますが、死者数は165名（全国11位）にのぼり、交通事故によって尊い命が犠牲になっています。

静岡県の幹線道路※1は、県内に占める道路延長の約12%程度ですが、交通事故発生件数の約半数、死亡事故の約6割が集中して発生しています。また、近年では、自転車や高齢者が関与した事故が増加しています。

本プランでは、交通事故対策を効率的に実施していくため、交通死傷事故が多発する箇所や道路利用者・地域の皆様が危険と感じられている箇所を対象にして優先的に取り組んで参ります。

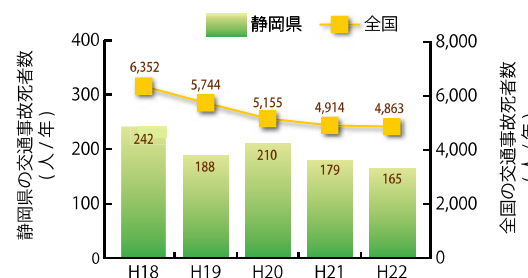
交通事故 死傷事故件数の推移（静岡県内全道路）(H18-H22)



静岡県内では、年間35,000件以上の死傷事故が発生

出典：交通事故統計年報（H18～22）

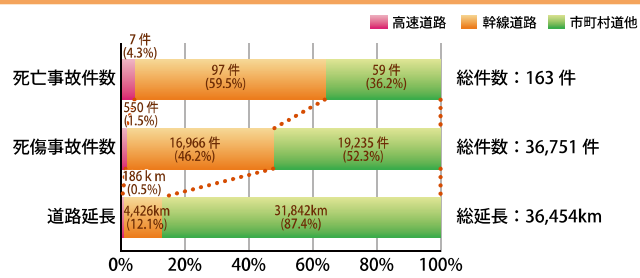
交通事故 死者数の推移（静岡県内全道路）(H18-H22)



静岡県内では、減少傾向にあるものの未だ年間150人以上が事故の犠牲者に

出典：交通事故統計年報（H18～22）

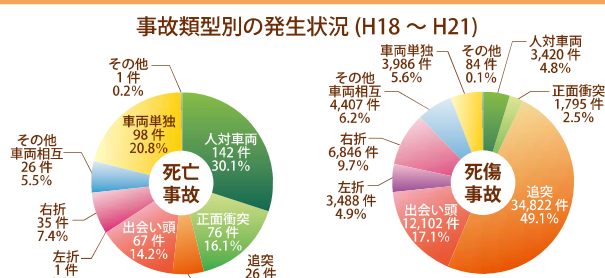
幹線道路における交通事故 (H22)



静岡県内の道路延長の12%を占める幹線道路に死傷事故の半数、死亡事故の6割が集中

出典：交通事故統計年報（H22）（事故件数）、道路統計年報（H21.4.1現在）

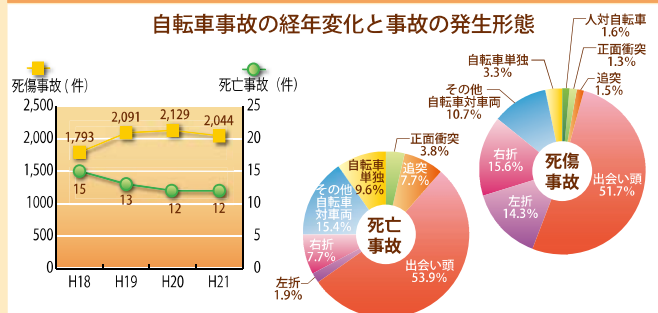
幹線道路の事故の発生形態 (H18-H21)



死傷事故では、追突の発生割合がもっとも高く、死亡事故では、対人車両・車両単独の割合が高い

出典：静岡県内事故別データ（H18-H21）(ITARDA)

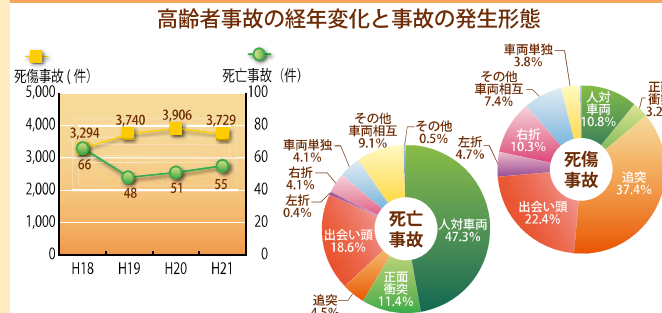
幹線道路の自転車事故※2 (H18-H21)



自転車事故は、死傷・死亡とも横ばい発生形態では、死傷・死亡とも出会い頭が最も多い

出典：静岡県内事故別データ（H18-H21）(ITARDA)

幹線道路の高齢者事故※3 (H18-H21)



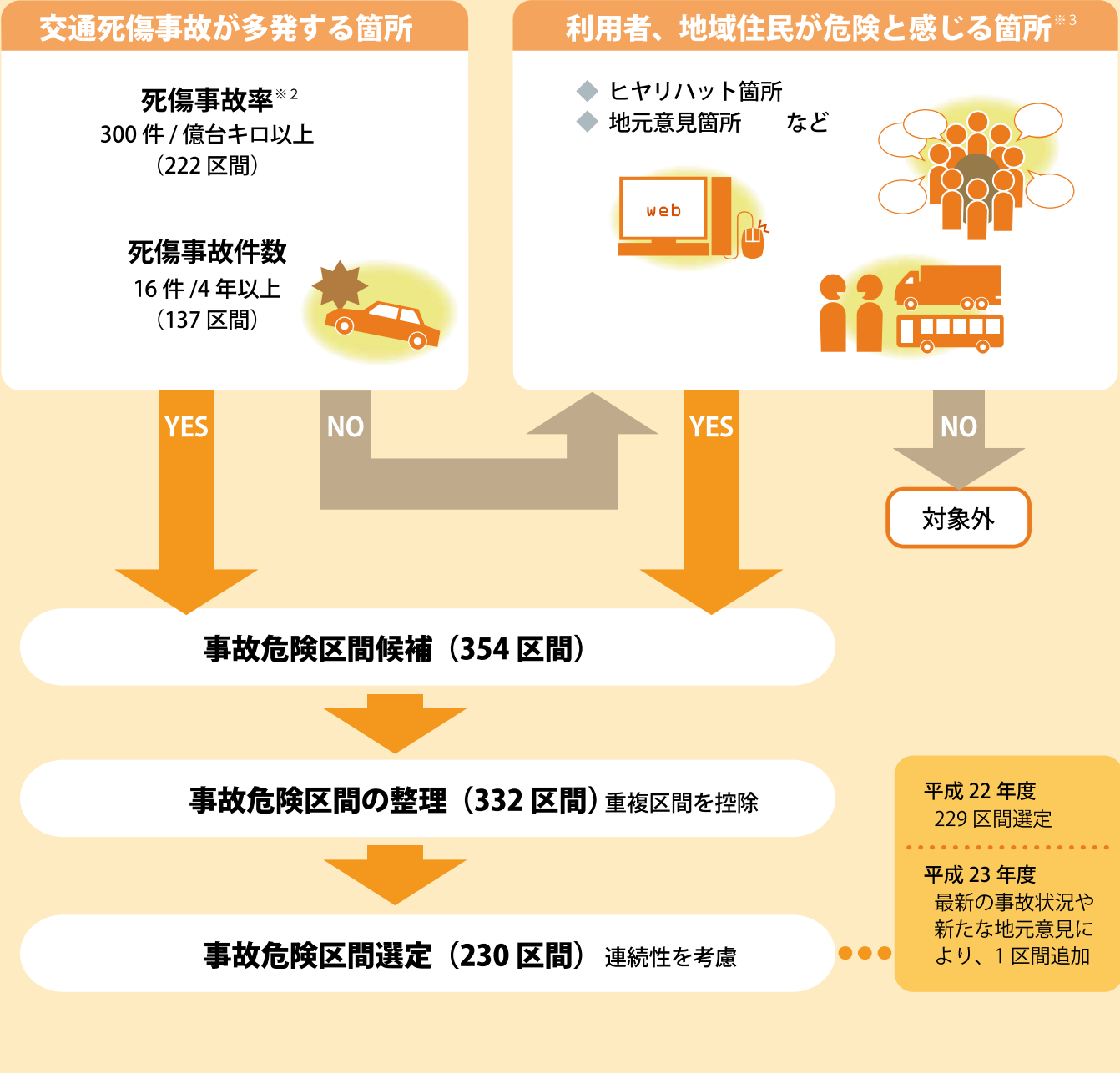
高齢者事故は、死傷では横ばい・死亡では増加傾向発生形態では、死傷は追突、死亡は対人車両が最も多い

出典：静岡県内事故別データ（H18-H21）(ITARDA)

# 03 事故危険区間の選定

静岡県事故ゼロプランでは、静岡県内の国土交通省が管理する国道を対象として、交通死傷事故が多発する箇所や静岡県の交通特性を考慮し、利用者・地域住民が危険と感じる箇所を事故危険区間として、静岡県道路交通環境安全推進連絡会議※1を経て230区間を選定しました。

## 事故危険区間の抽出フロー



交通事故を効率的・効果的に減らすため、交通死傷事故が多発する箇所や道路利用者・地域の皆様が危険と感じられている箇所を対象に取り組みを進めていきます。

※1：静岡県内の交通事故の防止を図るため、警察と道路管理者とが連携を図り、安全な道路交通環境の整備や利用者への広報を行うとともに、利用者の意見を交通安全施策に反映することを目的としています。  
 ※2：1km区間を1億台の自動車が行ったとき、その区間で死傷事故が発生する割合のことで、死傷事故の起こりやすさの目安となるものです。  
 ※3：利用者、地域住民が危険と感じる箇所の選定方法  
 ・地元意見：沿線市町の意見  
 ・ヒヤリハット箇所：利用者WEBアンケート  
 ・職業ドライバーヒアリング  
 ・その他：歩道、自転車道整備必要区間など

※1 幹線道路：ここでは国道及び県道のことを指す ※2 自転車に関与した事故 ※3 高齢者が関与した事故